

令和4年度（2022年度）学校評価報告書

北海道札幌西高等学校 定時制課程

1 本年度の重点目標

(1) 系統的なライフスキル教育の推進	(2) 生徒の多様な分かれ方を活かす授業づくり
(3) 個に応じた指導の充実	(4) 特別な支援を要する生徒へのきめ細かな対応
(5) 学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成・実施	(6) 観点別学習状況評価の充実
(7) P T Aや学校評議員など関係団体等との連携	

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

(1)系統的なライフスキル教育の推進	
ア 自己評価	・総合的な探究の時間を1学年における、増単の2年目で担当教諭により年間通じて「コミュニケーションに関する分野と学習能力に関する分野」の各種トレーニングを取り入れながら今年度も実施することができた。 ・健康教育分野では、今年度は「デートDV防止講話」を事前学習資料提供も含め、当日は比較的生徒参加型の講話とすることができ、初期の目的を充分達成することができた。
イ 学校関係者評価	・単発ではなく、年間を通じて行われているところが素晴らしいと思いました。 ・特別支援担当教諭の配置は、メリットが大きいと思います。毎年度の設置をお願いします。
ウ 改善方策	・増単した総合的な探究の時間については、指導計画に基づく継続性の担保をしていく。 ・健康教育分野の来年度実施も、講話での生徒参加型の講話になるよう工夫改善する。
(2)生徒の多様な分かれ方を活かす授業づくり	
ア 自己評価	・定期テストから「単元テスト」導入し3年目を迎え、実施方法を改善しながら運用し、生徒たちにも良い影響を及ぼしている。新型コロナ関係による欠席者への対応等が今後の課題となった。 ・ICT活用した指導法研究を今年度は、総務部がリーダーシップを取り、教科等横断的な取組を進められるような校内研修の実施ができた。
イ 学校関係者評価	・定時制こそ、「ICTの活用」が多様な生徒への対応に有効かなと思いました。 ・定期テストから「単元テスト」導入は、生徒達にプレッシャーもなく自由に勉強に取り組めると思います。改善しながら、今後も続けてほしいと思います。
ウ 改善方策	・「単元テスト」は、生徒にはかなり定着しているが、欠席者が出た場合の対応について検証していく必要がある。 ・ICT教育の教員スキルを高めるための研修は、短時間のミニ講座等を根気強く定期的の実施する。
(3)個に応じた指導の充実	
ア 自己評価	・生徒一人一人に合った指導を教材作成含め、各教科担当者が工夫改善しながら、方向性も含め継続してきた。 ・大学生ボランティアの活用については、当初の学生の力量向上のための研修等が実施できなかった。 ・一部指導に乗ってこれない生徒に対する外部との関係機関との連携による指導方法の研究については、実施はできなかったが、今後も継続研究する必要はある。
イ 学校関係者評価	・大学生に限らず、指導ボランティアをうまく活用できることを期待したいです。 ・大学生ボランティアは、是非継続してください。 ・大学生ボランティア活用で学生の力量向上のための研修等実施できなかったとありますが、工夫をして実行してほしいと思います。
ウ 改善方策	・生徒一人一人に合った指導を教材作成含め、各教科担当者が工夫しながら、進めている方向性は良いが、一部指導に乗ってこれない生徒に対して、外部との関係機関とも連携して適切な指導を模索していく。 ・大学生ボランティアの有効的な活用について、学生ボランティアの意識向上を図ることができるよう、毎回短時間の打ち合わせを行うとともに、事前指導も計画的に行っていく。
(4)特別な支援を要する生徒へのきめ細かな対応	
ア 自己評価	・特別支援担当教諭を中心に通常の学校教育活動にスムーズに参加できるよう支援を行ってきた。生徒たちにも安心感を与えるような体制づくりを整備することができた。 ・定例職員会議後の生徒の情報交換時には、今年度も事務部（関係者）にも参加してもらい、保護者の経済的な状況把握のためにも有効なものとなった。
イ 学校関係者評価	・定時制に限ったことではありませんが、関係職員の連携・協働が大切だと思いました。 ・特別支援担当教諭の存在は、生徒達にとっては大きいと思います。今後も安心感を与えるよう希望します。

ウ 改善方策	・特別支援を要する生徒に対する「0 時間目（始業前）」の活用が効果的であったことから、次年度も継続していく。また、学力向上のための0 時間目の活用方法についても検討していく。 ・定例職員会議後の生徒の情報交換時については、事務部にも参加してもらうことを継続していく。
(5)学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成・実施	
ア 自己評価	・総合的な探究の時間2 の増単関係について、今後の対応について、教育課程委員会を開催し、方向性等の検討を行うことができた。 ・社会に開かれた教育課程に向けて、前年度までの「若者サポートセンター」等との関係機関との連携が、残念ながら今年度から関係機関の体制変更もあり、継続的な活用ができなくなり、新しい手立てを模索した。
イ 学校関係者評価	・外部諸機関の協力が得られることを期待します。 ・「若者サポートセンター」等の活用が体制変更もあり、できないとありますが札幌市の施設（かでの2・7、ちえりあ、創世スクエア）等のカリキュラムを活用することも良いと思います。
ウ 改善方策	・グラデュエーション・ポリシーを中核に、学校の教育活動が実施されるよう、観点別学習状況の評価やループブリックの取組を充実・発展させる。 ・観点別学習状況の評価やループブリックの取組について、石狩教育局の指導主事を活用して研修会を開催する。
(6)観点別学習状況評価の充実	
ア 自己評価	・年度当初に校内研修として「観点別学習状況の評価の観点整理」を行い、合わせてキーループブリックに基づく、教科や単元ループブリック作成に向けた、適切な評価に結びつけられるような確認を行うことができた。 ・ICT活用ともリンクさせながら、授業の一体化となるような活用とその可能性について、総務部（教務研修係）の尽力により、画期的な校内研修会において、観点別学習状況の評価の一助ともなる方向性の確認ができた。 ・新校務支援システムの導入初年度により、問題点が多々浮き彫りとなったが、その都度タイムリーに研修しながら運用することができた。
イ 学校関係者評価	・上記の実施状況等の内容がもう少し詳しくわかると良いかなと思いました。 ・観点別学習状況は、問題点があるとの事、その都度タイムリーに研修しながら運用することができたとあります。先生方のご苦労がわかり ます。今後ともよろしくお願いします。
ウ 改善方策	・教員の中には、多少なりとも観点別学習状況の評価に対する考え方にずれがあることから、評価の機会や重み付け等の評価の在り方について検討が必要である。 ・ループブリックを授業の中で活用するためには、教科ループブリックや単元ループブリックが必要となるが、教科担任が1名しかいないことから、教務部がリーダーシップを取り、教科等横断的な取組を進める必要がある。
(7)PTAや学校評議員など関係団体等との連携	
ア 自己評価	・コロナ禍で中止となっていた2年を経て、今年度はPTA役員会総会を開催することができた。PTA総会やPTA懇談会の永遠の課題としては、保護者の参加者数を増やすことがさらに明確となった。 ・定時制「設立100周年記念式典」は、輔仁会と輔仁会定時部会の関係者の皆様のご尽力ご協力により 無事終了することができた。生徒にも思い出と記憶に残る行事にすることができた。
イ 学校関係者評価	・様々な活動について、ICTを活用しながら、開かれた学校をアピールしていくことが大切かなと思いました。 ・「西定先輩と語る会」は、大変有意義だと思います。卒業後の一助にもなると思います。 ・「設立100周年記念式典」も学校側の絶大なご支援で無事終了することができ、誠にありがとうございました。
ウ 改善方策	・保護者のPTA行事への参加率を高めるために、各種学校行事（含生徒会行事）にもPTA会長以外の役員へも案内したり、魅力あるPTA行事を模索していく。 ・輔仁会（同窓会）定時部会の役員のスムーズな世代交代できるよう支援を強化していく。